

登録コード	E2633900	開講年度	2026	市民開放授業			
授業科目	体育社会学					担当教員	橋本 政晴
英文授業名	Sociology of Sports					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学生	
講義室	教育N101講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				スポーツをめぐる社会問題を社会学の視点で思考することができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				スポーツ社会学の専門的な知識を修得する。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	各回の授業において、スポーツ社会学に関するトピックを取り上げ、解説する。また、その背後にあるスポーツの歴史性・社会性について、映像や資料などを通して紹介する。それらをもとに、小レポートを作成することによって、各テーマにおける「広義のスポーツ」の社会的な位置づけについて思考する力を培う。 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。						
(5)授業計画	第01回：スポーツにおける意図的な反則は許されるのか 第02回：スポーツにおけるフェアプレーとは何か 第03回：遊びとしてのスポーツ 第04回：スポーツとナショナリズム 第05回：スポーツとメディア 第06回：スポーツと暴力 第07回：スポーツとドーピング 第08回：スポーツとジェンダー 第09回：スポーツとファン 第10回：スポーツとグローバリゼーション 第11回：スポーツとポストモダン 第12回：スポーツと体育 第13回：スポーツと環境問題 第14回：スポーツと障がい者 定期試験						
(6)成績評価の方法	毎回の授業で出された課題に対する小レポートの提出を成績評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	小レポートの評価基準は次の通りである。 問題の背景を理解し説明ができている。 問題にどのような課題があるのかを指摘できている。 指摘した課題について社会的・学術的な知識を用いて考察できている。 自分の意見を説得的に提示できている。 まで達成している場合＝「水準にある（可）」 まで達成している場合＝「やや上にある（良）」 まで達成している場合、「かなり上にある（優）」 まで達成している場合、「卓越している（秀）」						
(8)事前事後学習の内容	講義前までに当日のテーマに即した情報収集してくることを事前学習とする。 各回に学んだ内容を次回までに復習することを事後学習とする。 90時間講義内の学習に加え、60時間以上の講義時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	スポーツに関わるテレビ番組／新聞／雑誌／映画／漫画／ネット情報などに幅広く接しておくことが望ましい。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	授業についての質問は、授業時間内とその前後に随時受け付ける。 履修や授業内容に関する質問はメールにて相談を受け付ける。						
【教科書】	指定しない。適宜資料を配布する。						
【参考文献】	石岡丈昇(編)『スポーツで社会学する』有斐閣。 多木浩二『スポーツを考える：身体・資本・ナショナリズム』筑摩書房。 J.コークリー＆P.ドネリー／前田和司ほか訳『現代スポーツの社会学：課題と共生への道のり』南窓社。						